

国家公務員の給与の減額措置等による国家公務員の人件費の総額の削減に関する法律案要綱

第一 趣旨

我が国の厳しい財政状況に対処する必要性に鑑み、当分の間の措置として国家公務員の給与の減額措置を定めるとともに、国家公務員の人件費の総額を百分の二十以上削減するため、退職手当制度、給与制度等に関し政府が講ずべき措置について定めるものとする。

第二 給与の減額措置

一 一般職の職員の給与に関する法律の特例

- 1 職員への俸給月額を支給に当たっては、当分の間、俸給月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 2 俸給の特別調整額、本府省業務調整手当、初任給調整手当、専門スタッフ職調整手当、単身赴任手当及び管理職員特別勤務手当の支給に当たっては、当分の間、支給額にそれぞれ百分の十を乗じて得た額に相当する額を、地域手当及び広域異動手当の支給に当たっては、当分の間、俸給月額、俸給の特別調整額の月額及び専門スタッフ職調整手当の月額に対する地域手当及び広域異動手当の月額にそ

れぞれ百分の十を乗じて得た額に相当する額を、研究員調整手当の支給に当たっては、当分の間、俸給月額及び俸給の特別調整額の月額に対する研究員調整手当の月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を、特勤手当及び特勤手当に準ずる手当の支給に当たっては、当分の間、俸給月額に対する特勤手当及び特勤手当に準ずる手当の月額にそれぞれ百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。

- 3 期末手当及び勤勉手当の支給に当たっては、当分の間、減額前の俸給月額等を基礎に算定した支給額にそれぞれ百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 4 非常勤の委員、顧問、参与等に支給する手当について、当分の間、その限度額を日額三万四千四百円に引き下げるとともに、その限度額により難い特別の事情がある場合の限度額を日額九万円に引き下げること。
- 5 一般職の職員の給与に関する法律附則第八項の規定の適用を受ける職員については、俸給月額及び俸給月額に対する手当の月額から、同項の規定により給与から減ずることとされる額を減じた後の額を基礎として、1から3までにおいて支給に当たって減ずる額を算定すること。

二 国家公務員災害補償法の特例

国家公務員災害補償法第四条第四項の規定に基づき計算される平均給与額は、当分の間、支給に当たって減ずることとされる額に相当する額を減じた給与の額を基礎として当該人事院規則の規定の例により計算した額とすること。

三 国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律の特例

国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律第五条第一項の規定により国際機関に派遣される職員に支給することができる給与の上限額を、当分の間、この法律の規定によりその支給に当たって減ずることとされる給与の額に相当する額引き下げること。

四 国家公務員の育児休業等に関する法律の特例

国家公務員の育児休業等に関する法律第二十六条の規定に基づく育児時間の承認を受けて勤務しない職員の給与の減額についての所要の規定の整備を行うこと。

五 一般職の職員の勤務時間、休暇等に関する法律の特例

一般職の職員の勤務時間、休暇等に関する法律第二十条の規定に基づく介護休暇をしている職員の給

与の減額についての所要の規定の整備を行うこと。

六 一般職の任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する法律の特例

- 1 任期付研究員への俸給月額を支給に当たっては、当分の間、俸給月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 2 任期付研究員業績手当の支給額を、当分の間、俸給月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額減ずること。
- 3 任期付研究員への手当の支給に当たっては、一の2及び3を準用すること。

七 一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する法律の特例

- 1 特定任期付職員への俸給月額を支給に当たっては、当分の間、俸給月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 2 特定任期付職員業績手当の支給額を、当分の間、俸給月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額減ずること。
- 3 特定任期付職員への手当の支給に当たっては、一の2及び3を準用すること。

八 法科大学院への裁判官及び検察官その他の一般職の国家公務員の派遣に関する法律の特例

- 1 職務とともに教授等の業務を行うものとして法科大学院に派遣され、勤務しない職員の給与の減額についての所要の規定の整備を行うこと。
- 2 専ら教授等の業務を行うために法科大学院に派遣される職員に支給することができることとされている給与の上限額を、当分の間、この法律の規定によりその支給に当たって減ずることとされる給与の額に相当する額引き下げること。

九 特別職の職員の給与に関する法律の特例

- 1 特別職の職員の俸給月額を支給に当たっては、当分の間、俸給月額に、内閣総理大臣については百分の三十、国務大臣級又は副大臣級の俸給月額を受ける者については百分の二十、大臣政務官、常勤の委員長等、大使、公使、秘書官等については百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 2 1以外の給与の支給に当たっては、当分の間、一の適用を受ける職員の例により減額すること。ただし、内閣総理大臣及び国務大臣級又は副大臣級の俸給月額を受ける者に対する地域手当及び期末手当の支給に当たっては、減額前の俸給月額等を基礎に算定した支給額に、1の職員の区分に応じた割

合を乗じて得た額に相当する額を減ずること。

十 裁判官の報酬等に関する法律の特例

裁判官への報酬の支給に当たっては、当分の間、報酬月額に、最高裁判所長官については百分の三十、最高裁判所判事及び東京高等裁判所長官については百分の二十、その他の高等裁判所長官については百分の十五、判事、判事補及び簡易裁判所判事については百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。

十一 裁判所職員臨時措置法の特例

裁判所職員について、当分の間、この法律の規定（一部を除く。）を準用すること。

十二 検察官の俸給等に関する法律の特例

検察官への俸給の支給に当たっては、当分の間、俸給月額に、検事総長については百分の二十、東京高等検察庁検事長については百分の十五、次長検事、その他の検事長、検事及び副検事については百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。

十三 検察官に関する読替え

検察官に対する二、三及び八の適用について、必要な読替えをすること。

十四 防衛省の職員の給与等に関する法律の特例

- 1 防衛省の職員のうち事務官等（自衛隊教官俸給表の適用を受ける者を除く。）への俸給月額を支給に当たっては、当分の間、一般職の国家公務員に準じて減額すること。
- 2 防衛省の職員のうち自衛隊教官俸給表若しくは自衛官俸給表の適用を受ける者又は防衛省の職員の給与等に関する法律第四条第四項ただし書若しくは同条第五項の規定の適用を受ける者への俸給月額の支給に当たっては、当分の間、俸給月額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 3 防衛省の職員の本府省業務調整手当、初任給調整手当、専門スタッフ職調整手当、地域手当、広域異動手当、単身赴任手当、特地勤務手当、特地勤務手当に準ずる手当及び管理職員特別勤務手当の支給に当たっては、一般職の国家公務員に準じて減額すること。
- 4 俸給の特別調整額の支給に当たっては、当分の間、支給額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。
- 5 自衛官候補生、学生又は生徒に対する自衛官候補生手当、学生手当又は生徒手当の支給に当たって

は、当分の間、支給額に百分の十を乗じて得た額に相当する額を減ずること。

6 防衛省の職員の給与等に関する法律附則第五項の規定の適用を受ける職員については、一般職の職員の給与に関する法律附則第八項の規定の適用を受ける職員に準じて、支給に当たって減ずる額を算定すること。

十五 国際機関等に派遣される防衛省の職員の処遇等に関する法律の特例

国際機関等に派遣される防衛省の職員の処遇等に関する法律第五条第一項の規定により国際機関等に派遣される防衛省の職員に支給することができる上限額を、当分の間、この法律の規定によりその支給に当たって減ずることとされる給与の額に相当する額引き下げること。

十六 端数計算

一から十五までの措置において俸給月額等から支給に際して減ずることとされている額に一円未満の端数を生じた場合には、これを切り捨てること。

第三 人件費の総額の削減の目標を達成するための措置等

一 人件費の総額の削減の目標を達成するための措置

1 政府は、できる限り速やかに、国家公務員の人件費の総額について平成二十三年度におけるその額からその百分の二十に相当する額以上を削減することを目標として、次に掲げる事項を実現するために必要な法制上の措置その他の措置を講ずるものとする。

① 民間における退職金について、これに民間において実施される年金制度に基づいて年金に代えて支給される一時金を含まないものとしてその実態に関する調査を行い、その結果に基づき、国家公務員が退職した場合に支給する退職手当について、その水準を民間における退職金の水準と均衡がとれたものにする。

② 国家公務員の給与制度について、第二においてその特例を定めている法律に第二の措置を反映させるとともに、次に定めるところによるものとする。

イ 国家公務員（勤務成績に応じて昇給する者に限る。②において同じ。）は、新たに俸給表の適用を受けることとなった日又は俸給表に定める一の職務の級（階級を含む。②において同じ。）から他の職務の級に移った日から、新たに他の職務の級に移ることなく十年を経過した日後は、その属する職務の級においては昇給しない仕組みとすること。

ロ 国家公務員の昇給の決定の基礎とするための勤務成績の評価において、勤務成績が標準的であるとの評価を受ける国家公務員を中心として、勤務成績が当該国家公務員よりも良好であるとの評価を受ける国家公務員と良好でないとの評価を受ける国家公務員とをおおむね正規分布させる仕組みとすること。

ハ 国家公務員の職務の級ごとの定数を見直し、管理又は監督の地位にある国家公務員の定数を当該組織にとって真に必要な数に減ずるとともに、これを除く定数を下位の職務の級の定数に振り替えること。

2 政府は、1の措置の実施による国家公務員の人件費の総額の削減の効果を検証した上で、1の目標を達成するためなお必要があると認めるときは、国家公務員の総数を純減させるとともに、国家公務員の給与を1（①を除く。）の措置の実施により定められた給与から更に減額することとなるよう、俸給表に掲げる俸給月額の下げ等のために必要な法制上の措置を講ずるものとする。

二 労働基本権に係る制限の廃止のための措置

一の1の目標が達成された場合には、国家公務員の労働基本権（団結する権利及び団体交渉その他の

団体行動をする権利をいう。)に係る制限については、その地位の特殊性及び職務の公共性に基づき引き続きその必要性が特に認められる国家公務員に係るものを除き、廃止するものとし、政府は、速やかに、そのために必要な法制上の措置を講ずるものとする。

第四 その他

- 一 この法律は、公布の日の属する月の翌々月の初日（公布の日が月の初日であるときは、翌月の初日）から施行すること。
- 二 政府は、地方交付税法第十一条の規定による基準財政需要額の算定その他の事項に関し、地方公務員の給与水準が第二の措置の適用後の国家公務員の給与水準を反映したものとなるよう必要な法制上の措置その他の措置を講ずるものとする。
- 三 その他この法律の施行に関し必要な措置等を定めること。